

株式会社アニマックスブロードキャスト・ジャパン

番組審議会議事録

1. 開催年月日 2024 年（令和 6 年）12 月
2. 開催場所 虎ノ門タワーズオフィス 6 階会議室 Room5
3. 委員出席

委員総数 7 名

出席委員数 7 名（対面参加 4 名、書面参加 3 名）

出席委員の氏名 重村 一（委員長）

内山 隆（書面参加）

樹林 ゆう子

高橋 望

金子 ありさ（書面参加）

桶田 大介

森川 美穂（書面参加）

4. 議題

審議作品 TV アニメ「MF ゴースト 2nd Season」

第 1、2 話（第 13、14 話）（各 24 分）について

放送日程：2024 年 10 月 12 日から毎週土曜 23：30（アニマックス）

審議作品概要：本作は、2023 年 10 月から TOKYO MX 他の深夜アニメ枠で放送開始、アニマックスも製作委員会に参加しました。審議いただくのは、2024 年 10 月から放送している 2nd Season のエピソードです。本作は、原作者が過去に連載していた漫画『頭文字 D』の近未来の世界観という設定で、実在する公道でのレースをテーマに描く物語です。

5. 議事の概要

- ① 本作品のご感想、表現やテーマ等でお気づきの点など。
- ② 若者層の車離れがトレンドとして語られる昨今ですが、車ファンの中高年だけでなく、若い世代にも車の魅力を伝えることができているかどうか。
- ③ 本作品が国内・国外で話題を獲得するために必要なものは何だとお考えでしょうか。

6. 審議内容

- ・ 「車」を題材にしているが、この作品はかつてのスポ根ものである。昭和から平成の古いアニメという印象を受けた。どこか尖ったところを作らないと、一つのブームを巻き起こすことは出来ないと思う。
- ・ F1等の面白さはバックヤードの面白さなので、ドロドロした部分などをもう少し描けると刺激的な作品になるのではないか。
- ・ 若者が車に興味が無いというのと、本作品とはあまり関係ないのではないかと思う。若いヒーローが一つの目的に向かってどうトライしていくか、という作りを見れば車とは全く関係ないのではないか。
- ・ かつてのスポ根ものは構図が必ずあった。特徴のあるライバルが必ずいて、主人公よりも周りの人間をどれだけ描き込んでいるかで視聴者の熱が入ってくるかどうかだと思う。
- ・ 同じ原作者なので、どうしても『イニシャルD』との比較にならざるをえないと思う。
- ・ イニDは何度もアニメが作られてきたが、いずれもカーバトルの圧倒的な迫力が演出されていたと思う。対して、今作MFはそうした域に達していないと思う。もちろん画の精密感やプロポーションが精緻である点は進歩を感じるものの、パースの取り方やBGMのつけ方、様々な補助線の取り方など、イニDが持っていた迫力感がない点は、指摘せざるをえないと思う。
- ・ 架空の設定（公道レース）があること、分別のある大人が鑑賞する分においては、現実とフィクションの世界を分けてみることができるので、一定程度の訴求はすると思うが、イニシャルDほどの訴求力はないと思う。イニDには、安い年代落ちのAE86に対する処々の最新の高性能なクルマとの対比・競争という構図が設定にあったが、今作の新86とその他に出てくる様々なクルマの間には、そのような対比は弱く、“何と競っているのか”という設定が弱い。新86は、そんなに安い手短な車ではないし、そもそもクルマの全体的な性能向上やボディの拡大に対して、日本の道路環境はあま

りに狭すぎて、大衆車であっても性能を持て余し気味で、公道レースのなかで、クルマの性能やドライバーの技量を競いあう余地が乏しく、その点でもリアリティを欠くものがある。

- ・ 車がもはやコモディティである若年層に対しては、あえてマニュアル車で、“機械を操作する愉しみ”、“人車一体”を訴求するのは、気持ちよく走れる環境、ワインディングロードなどがあるような地域というバックグラウンドをもたないと難しいと思う。
- ・ 多少難解になってもよいので、メカやコンピュータ・アルゴリズムに特化し、それをドライビングに活かすようなセリフや内容があったほうがおもしろい。
- ・ 解説の用語に英語が使われていたりするので、視聴者の年齢層は高いと思う。
- ・ 好きな人はすごくはまると思うので、ネット上で意見を言い合う「サロン」のような場があると盛りあがると思う。制作側で、そういう場を作るのもよいと思った。
- ・ 「イニシャルD」の続編があるという程度しか知らず、見てなかったので、見ると面白いと思ったし、埋もれていくのはもったいないと思った。
- ・ 富士山の噴火や、コースの周辺に有毒ガスが出ていて人が住んでいないなど、少し SF 要素や、怖いところもあるが、そういうところも含めて面白いと思った。
- ・ 世の中 EV と言っているが、ガソリン車が頑張っしてほしいという気持ちがあり、そこも興奮のポイント。
- ・ 今、若者は免許を取らない人が多いので、車文化の楽しさがアニメを通じて伝えていけたら良いと思う。そういった意味でもサークルやサロン作りは意味があると思う。
- ・ 勧善懲悪という構図よりは、今は思い入れのあるキャラクターが沢山出てくる方が面白いという気がする。ライバルたちをもっとカッコよく描き込めば「誰推し」という話が出来ると思う。
- ・ 全体的におとなしく、綺麗に仕上がりがすぎていて、物足りない。レースものの特有の、野蛮なバイタリティのようなものが完全に抜けている印象。昔の車好きから見ると物足りない印象を受けた。
- ・ SF/アニメ作品としてマニア心をくすぐるような面白い設定が足りない。
- ・ 若者の車離れは非常に深刻だと思っている。電気自動車になり、自動運転になり、車が趣味的なものから単なる移動手段になっていく中で、あえて車の面白さをやるというメッセージは良くわかるが、どれくらい伝わるかという点で難しいのではないかな。
- ・ 「イニシャルD」を好きな人や、しげの先生の作品を好きな人という枠を超えて、魅力を伝えるのは難しいと思う。
- ・ 「MF ゴースト」のような、趣味性の強い作品は熱心なファンが多いと思うので、それを武器に、テレビ放送の同時性を利用した仕掛け（SNS での同時視聴の仕掛けなど）

を考えると良いのではないか。

- ・ 主人公の目的や、目指しているものがわからなかった。車の性能も違うので、レースの目的もよくわからなかった。
- ・ 人気原作のアニメ化でコンセプトがしっかりしていて未見でも入り込めた。
- ・ 画も丁寧で迫力があり、見応えがある。展開も思わず見入るエンタメ性があると思う。
- ・ 子どもが喜びそうなので、放映されたら一度は見せると思う。ただ親子で楽しめるかという点に全く興味が無い方はただ情報としてみるイメージ。人間関係のドラマがつかみづらいので特に共感することはなく感心してみる感じで、その狭さが気になった。
- ・ 「アクション」 + 「レース」というシンプルな見せ方で車の魅力は十分伝わると思う。
- ・ 制作チームの力量を感じる。こういう物語を入口に世界が広がることがエンタメには求められると思うのでとても良い企画だと思う。
- ・ 子どもであれば、車種を知る、集めることに夢中になれるとよい気がするので、登場する車にスポットを当てた、おまけコーナー等があると良いと思う。
- ・ キャラ図鑑や、車コレクターグッズなどわかりやすく展開すると良いと思う。
- ・ 主人公が大人しく、礼儀正しい青年でエネルギーが小さい（のびのび、破天荒といった強さが分かりやすいと思う）。どうしても解説が多くなっており、もっとハラハラドキドキ、心揺さぶられるとより支持されるのではないか。
- ・ 「イニシャルD」が分かる人には、随所に込められたネタなどを楽しめるが、「MF ゴースト」単品では、引き込まれるほどではない。
- ・ 楽しめる人は楽しめるがそうでない人はつらいかもしれない。この作品を本当の意味で楽しめる人は40代後半の自分で車に乗っている車好きな人によって来ると思うのでターゲットは絞られると思う。
- ・ この番組のみで車の魅力が伝えられるのかというと、登場する車が高級車ばかりなので、あまり共感できないのではないかと思う。
- ・ 実際のメーカーとのリアルイベントや、模した車のデモンストレーション走行イベントなどをうまく組み合わせれば、チャンスはあると思う。
- ・ モータースポーツに興味が無くても、この作品は続きが見たいと強く思った。
- ・ 初めて聞く専門用語が多数あり理解が追いつかないことがあったが、スピード感と物語の面白さに集中して見入ってしまった
- ・ 「おあいご用」というセリフがあったが、昭和感漂う表現に思わず笑ってしまった。ただ若い世代にピンとくるのかどうか。
- ・ 若い世代も面白く感じるのではないかと思う。 スピード感と音楽のテンポなど世代問わず興奮するのではないかと思った。

- ・ 日本の景色や食文化も取り入れているので、外国でも放送したら人気が出るのではないか。

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

番組演出の改善点など、今後作品をよりよくしていくためのアイデアも多く教示いただきました。こうした各員からのご意見を制作者に共有し、今後の制作の参考として参ります。

以上